埋蔵文化財 愛知

no.46

3号人骨

2号人骨

3号・4号人骨

弥生人

朝日遺跡

愛知県西春日井郡清洲町に所在する朝日遺跡から、弥生時代中期末に所属する土壙墓が10基確認され、その多くに人骨が良好な状況で保存されていた。方形周溝墓と土壙墓の関係、さらに弥生人の研究にとって重要な発見でもある。（II頁に関連記事）

遺跡調査速報

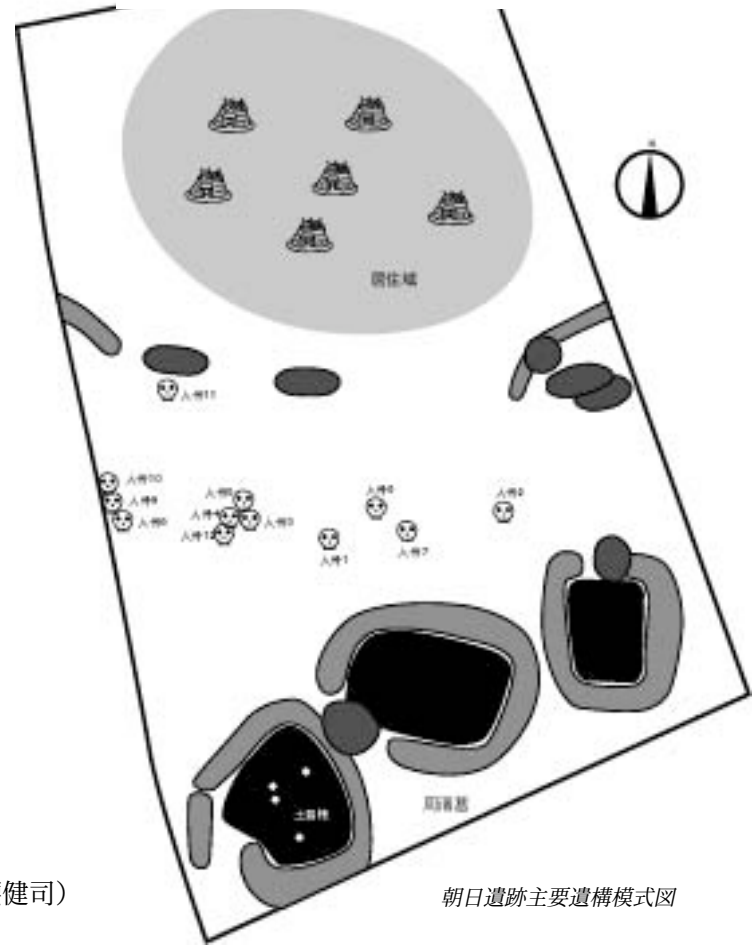
朝日（あさひ）遺跡

西春日井郡清洲町
愛知県埋蔵文化財センター

貝殻山貝塚の南で行っている朝日遺跡の発掘調査において、１２体の人骨が出土した。12体のうち10体は確実に埋葬されたと考えられ、方向が一致する長方形の土壙より出土している。土壙は二重の掘り込みをもち、遺体は内側の掘り込みに足と手を曲げた屈葬の形で埋葬されている。時期については、確実な伴出土器がないため不明であるが、堆積状況より弥生時代中期後半～古墳時代前期のものと推定される。その中でも南にある中期前葉から中葉の方形周溝墓が改変されて土器棺が埋められ、北に居住域が作られるなどの状況から推察して、人骨等は弥生時代中期末に所属する可能性が高いと思われる。

今回の事例が中期末のものとすれば、朝日遺跡では不明な部分の多いこの時期の集落の様相を考える貴重な手がかりとなろう。

（埋文セ　宮腰健司）



朝日遺跡主要遺構模式図

下津北山（おりづきたやま）遺跡

稲沢市下津北山町　　愛知県埋蔵文化財センター

稲沢市下津北山町に所在する下津北山遺跡は、青木川によって形成された自然堤防上に位置する。今回は尾張西部都市拠点地区開発に伴う事前調査として旧国鉄稲沢操車場跡地内、約2000㎡を5月から発掘調査している。

調査でもっとも注目すべきは、幅約３ｍ、深さが最大で約１ｍの溝による方形の区画を検出したことである。区画の一辺は約６０ｍに復原できる。区画溝や区画内部の井戸、掘立柱建物、土坑、排水の溝からは灰釉系陶器をはじめとする遺物が大量に出土しているが、そのほとんどは１２世紀の後半に時期を限定できるものである。これらの遺物に混じって緑釉円塔、人形木製品、陶硯（風字硯２点、方形硯１点）が出土したほか、「僧」と判読できる墨書陶器が数点みられることから、この区画の内部が宗教空間として機能していた可能性が高い。また、１３世紀以降の居住域に関する遺構がこの区画外に展開していることも、この区画の性格を考えるうえで興味深い。

（埋文セ　早野浩二）

区画溝と掘立柱建物

遺物出土状況

元屋敷遺跡（もと やしき）

一宮市丹陽町伝法寺　　一宮市教育委員会

当遺跡は、昭和36年に土取り工事により発見・調査された遺跡で、出土した土師器群は元屋敷式と呼称され、長く東海地方の標識遺跡として君臨してきた。

今回、伝法寺地区における土地区画整理事業実施に伴い、道路部分約2800㎡の発掘調査を平成８年１月から６月まで実施した。

検出した遺構のうち、弥生時代前期の環濠については、その西端と北端を検出し、環濠に囲まれると推定される範囲は、東西約130m、南北150mのほぼ円形のプランを持つものと考えられる。そして、南西部の環濠底部からは細片化した土器片と、下呂石の剥片、円形の剥片石器もかなりの量検出している。また昭和36年に検出された溝は、環濠の一部であること、そしてその環濠が埋没しきらない間に土師器が堆積していることを確認した。

さらに、古墳時代の土壙墓と考えられる土坑を検出しており、その内１基からは、廻間Ⅰ式の壺２個体、長頸壺１個体が出土している。

今回の調査は、遺跡縁辺部の調査のため集落内の様相は把握できなかったが、今後の集落内部の調査に期待がかかるものである。

（一宮市博物館　土本典生）

環濠検出状況

環濠内遺物検出状況

枯木宮貝塚（かれきのみや）

西尾市巨海（こみ）町　西尾市教育委員会

枯木宮貝塚は、西尾市域の南部、南北に伸びる碧海台地の南端近くに所在する縄文時代晩期前葉の貝塚で、県の史跡に指定されている。過去７回調査が行われ、三体合葬人骨、盤状集積、埋葬犬骨、埋葬人骨や土器、骨角器、獣骨・魚骨類が出土している。今回の調査は、夜間照明施設工事の事前調査として指定地周囲の500㎡を調査した。

今回の調査では、縄文時代の貝層、住居跡、人骨埋葬土坑、古墳時代の竪穴住居、中世の区画溝などを確認することができた。このうち特筆すべき遺構としては人骨埋葬土坑１基があげられる。この土坑は、貝層下に掘り込まれており、長径1.2m、短径0.85mの楕円形を呈し、深さは検出面から35ｃｍを測る。人骨は１体、頭をほぼ南に向け、仰臥屈葬形態で埋葬されていた。人骨の残存状況は比較的良好で肋骨部分を除きほぼ全容が確認でき、身長約160cm、青年男性と見られる。副葬品はなく、埋土中からの遺物も非常に少なく時期は確定できない。また、抜歯などの痕跡、人骨の細部についても今後の調査課題である。

（西尾市教育委員会　鈴木とよ江）

人骨埋葬土坑

縄文時代晩期の住居跡

1.大毛池田遺跡
2.西大海道柏木
3.牧野小山遺跡
4.宮之脇遺跡
5.堂ノ前遺跡
6.惣作遺跡
7.赤堀城跡
8.郡山遺跡群
9.神明社貝塚
10.八幡上遺跡
11.浜名湖弁天島遺跡
12.贄遺跡
13.阿津里貝塚

瀬戸内型土錘と工字型土錘の分布（久保禎子1994に加筆）

● 瀬戸内型土錘

牧野小山遺跡	岐阜県美濃加茂市牧野緑ケ丘他	（不明）1点
宮之脇遺跡	岐阜県可児市川合宮之脇	（古墳時代前期）2点
一宮市柏木	愛知県一宮市大海道柏木	（不明）1点
堂ノ前貝塚	愛知県東海市	（古墳時代）1点
赤堀城跡	三重県四日市市城東町	（古墳時代以降）1点
郡山遺跡群	三重県鈴鹿市郡山町	（奈良～平安時代）1点
贄遺跡	三重県鳥羽市安楽島町字ニエ	（奈良時代）1点
浜名湖弁天島遺跡	静岡県浜名郡舞浜町弁天島	（不明）
大毛池田遺跡	愛知県一宮市大毛	（古墳時代前半期）1点

● 工字型土錘

神明社貝塚	愛知県南知多町大字篠島字神戸101	（奈良時代以降）2点
八幡上遺跡	愛知県渥美郡田原町	（奈良～平安時代）2点
贄遺跡	三重県鳥羽市安楽島町字ニエ	（奈良～平安時代）10点
阿津里貝塚	三重県志摩郡郡志摩町越賀阿津里	（奈良時代以降）1点／個人所有
惣作遺跡	愛知県大府市横根町惣作	（平安時代）2点／「卵形横溝土錘」
大毛池田遺跡	愛知県一宮市大毛	（奈良～平安時代）1点

瀬戸内型土錘（大毛池田遺跡）

工字型土錘（大毛池田遺跡）

瀬戸内型土錘・工字型土錘

瀬戸内型土錘と工字型土錘

瀬戸内型土錘・工字型土錘と呼称されるやや特殊な分布をみせる土製品がある。

まず「瀬戸内型土錘」は形状より「棒状土錘」「有孔土錘」とも呼ばれ、両端部に円い貫通孔を穿った円棒状あるいは横断面が偏平な厚い板状を呈する土製品である。長さ7cm前後、20g前後のサイズが最も多く、異なる重量は棒部分の太さを増減して作りわけられる。使用された網の規模、錘の装着方法など具体的な使用方法はわかっていないが、東南アジアの民俗資料などにより小型刺網の漁網錘に用いられたと推定されている。時期が推定できる明確な出土資料は少ないが、弥生時代前期・大阪府勝部遺跡にみられるものが古く、奈良時代以降衰退するまで、主に大阪湾岸～瀬戸内海にかけての海浜部に近い集落遺跡に分布が集中している。西は博多湾沿岸、東は静岡県浜名湖弁天島遺跡に広がりを見せるほか、鹿児島湾沿岸域にも分布圏をもつ。また、紀ノ川流域など、河川漁撈での使用を示すような内陸部の遺跡にも分布が見られる。

瀬戸内海沿岸以外の大きな分布圏の一つであるここ伊勢湾周辺では、現在9遺跡（地点）で計１０点が確認されており、紀伊水道海岸部から紀伊半島南端をまわり、あるいは紀ノ川沿いに上流域から櫛田川上流域にでる道筋を経てこの地域に伝播したものと考えられている。平成3年岐阜県博物館尾関章氏により木曾川・飛騨川の合流地点に立地する宮之脇遺跡での古墳時代前期の出土例が紹介されたことによって、木曾川水系の集落への展開がみいだされた。これは瀬戸内集中域において出土例が増加する弥生時代後期～古墳時代前期の比較的短期間の間に伊勢湾内陸部にまで一挙に広がったことを示している。

「工字型土錘」は「有溝土錘」とも呼ばれ、伊勢湾周辺へは奈良時代以降に広がってくるこれも瀬戸内系の土錘である。両端がやや尖った楕円球形ないしは偏平な球形の体部に、両側面あるいは両長軸側面に溝をもち断面が工字型を呈する。こちらは重量、サイズともに若干幅があり刺網、台網など中型定置網の錘と考えられるほか、一方で100gをこえるものは曳網での使用の可能性も指摘されている。これまでの確認例では海岸部の集落跡からの出土が圧倒的に多く、木曾川中流域に立地する大毛池田遺跡は異例である。

さて、地理的、地形的要因と出土遺跡の性格を基にこれら土錘の伝播・流通の傾向をさぐるとすれば、瀬戸内型土錘の分布圏の形成には鹿児島湾西岸（薩摩半島）を本貫とする特定の集団の活動を充てる考えもある。伊勢湾周辺との関連は明らかにされていないが、これら土錘分布は古代の生産活動の一つの柱である漁撈の個別の有り様を語るとともに、海民集団と文化の活発な移動・交流の航跡を描いているのである。

参考文献
久保禎子1994『漁の技術史－木曾川から伊勢湾へ－』平成6　年度一宮市博物館企画展図録
尾関章1991『犬と土錘と漁る人々　鹿児島－その自然と歴史－』岐阜県立博物館記念展展示図録
大野左千夫１９８０「有孔土錘について」『古代学研究』93
大野左千夫1995「有孔土錘再考－紀伊半島から東海へ－」『地方史研究』256
大野左千夫１９７８「有溝土錘について」『古代学研究』86

（埋文セ　武部真木）

平成8年度埋蔵文化財展

「新出土品展'96」

8月3日(土)～17日(土)豊川地域文化広場桜ヶ丘ミュージアムにおいて開催し、西上免遺跡の前方後方墳のジオラマや大毛池田遺跡の古墳時代の水田の一筆の復原などを展示。（見学者約2000人）

展示会場

埋蔵文化財講座・講演会

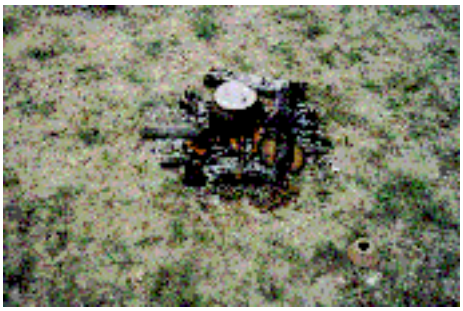
埋蔵文化財講演会

8月3日(土)・17日(土)には、桜ヶ丘ミュージアム会議室において埋蔵文化財講座が開かれ、西上免遺跡・大毛沖遺跡・白鳥遺跡(3日)、吉田城遺跡・一色青海遺跡・駒場遺跡(17日)の発掘調査担当者による遺跡や遺物の解説が行われた。（参加者各90名ほど）

また10日(土)には、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長の山中敏史氏を講師に迎えて、「発掘された古代地方の役所」と題した講演会を開催。（約150人）

イベント「米を炊く」

8月17日(土)の講座の後、豊川地域文化広場内アスレチック広場において、復原された古代から戦国の土器を用いて赤米を炊くイベントが行われました。90名ほどの参加者が煙にまかれて見守る中、約20分ほどで見事に炊き上がりました。



煮炊実験風景

埋蔵文化財愛知　　no.46

発行　平成8年10月4日
編集　財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
〒498 愛知県海部郡弥富町前ケ須新田字野方802-24
TEL 0567-67-4161～4163　FAX 0567-67-3054
印刷　クイックス